



九州大学教育改革推進本部  
Kyushu University Education Innovation Initiative

# 令和2年度卒業生調査 分析結果報告書の概要

令和3年9月  
教育改革推進本部

# 調査実施の方法

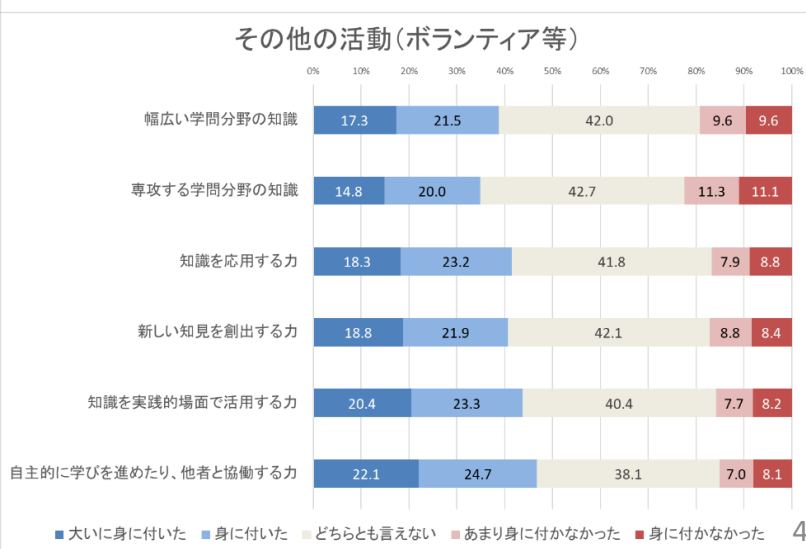
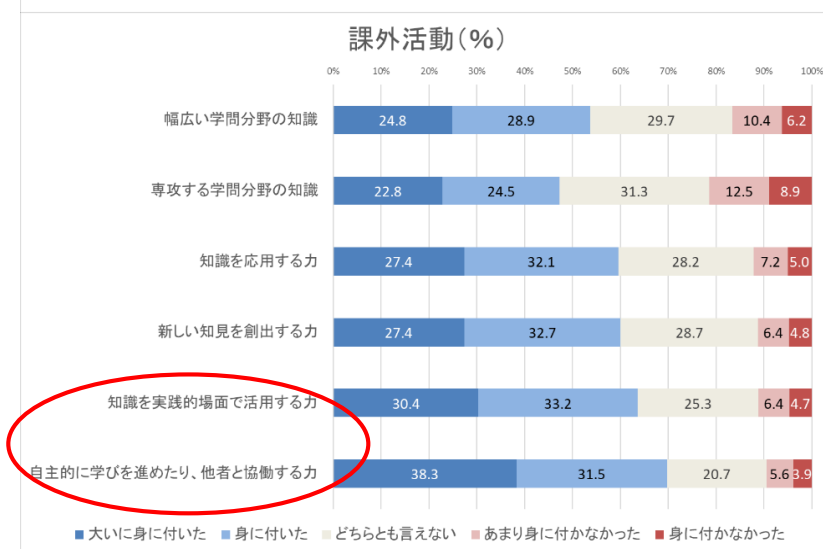
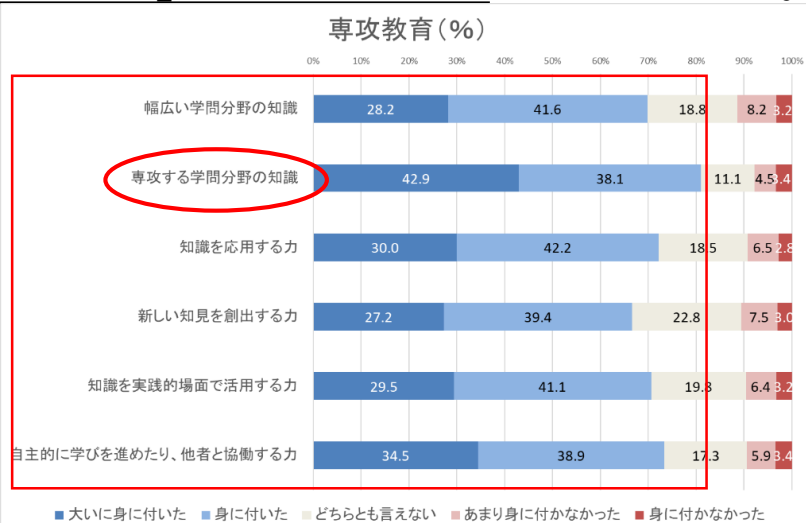
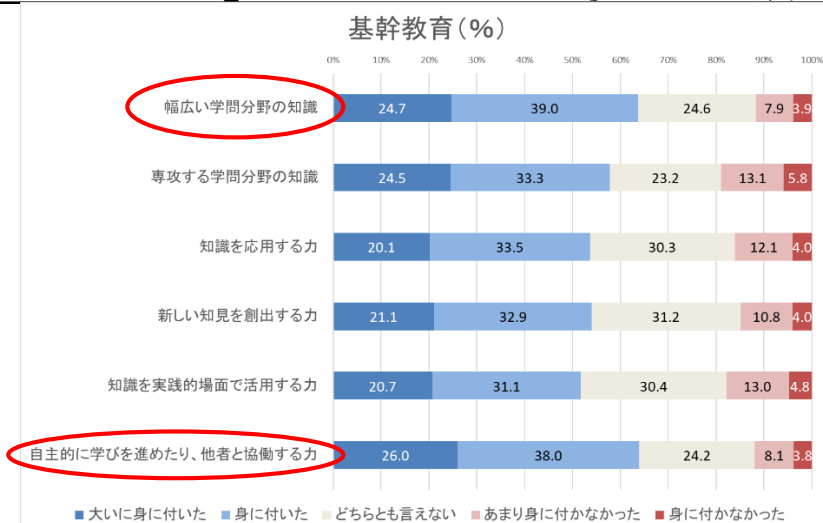
- 令和2年度（3月）学部・学府卒業生・修了生全員を対象に、卒業式への出席有無のアンケートに添えて、**Web調査（Moodle）**の実施を依頼（学務部）。
  - 学部1,449人（回答率57%）、学府707人
  - 回答者の属性として、馬出・大橋キャンパス学部の回答率が相対的に低い傾向にあったが、性別、国籍には偏りは確認されなかった（資料2. 「1.属性」（1～5頁）参照）
- 質問紙は、**6肢択一式問題7問（45項目）**と自由記述式問題2問。回答に要する時間は約5分程度。
  - 資料3. 「卒業生・修了生アンケート」出力結果参照。
  - 学修成果、満足度、印象に残った経験、要望・提案。

# 分析の方法

- 教育改革推進本部の監修
  - 分析担当
    - 高嵯浩平（人間環境学府・博士後期課程）
    - 守秘義務同意書に署名
  - アドバイザー
    - 三隅一人先生（比較社会文化研究院・教授）
    - 高野和良先生（人間環境学研究院・教授）
- 基本的な傾向分析
  - 基礎集計（属性、学修成果、満足度）
  - 大学での経験と満足度のクロス集計
- 今後の予定（毎年、2回（春・秋）に実施）
  - 経年観測
  - 発展的な分析

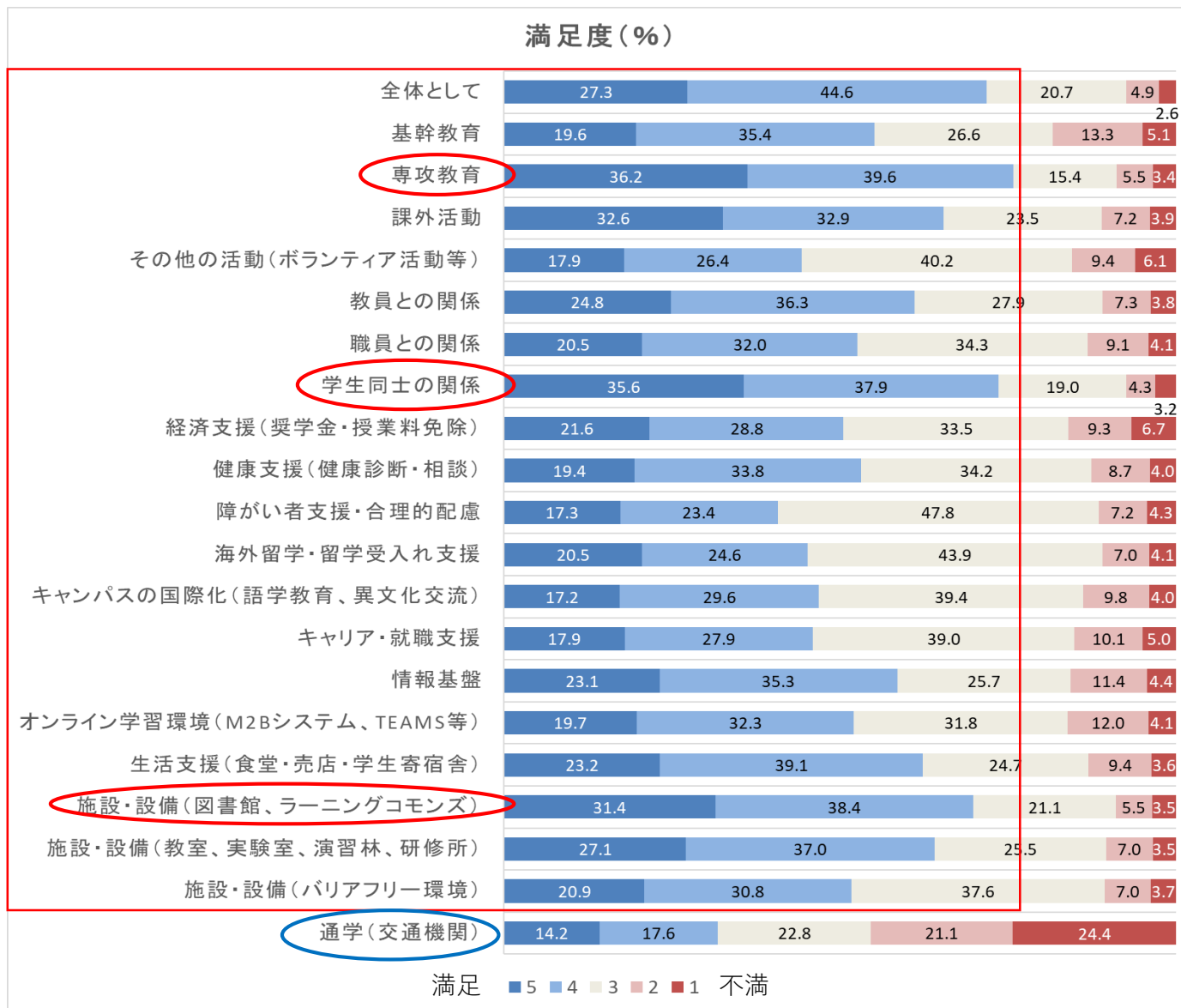
# 学修成果 (資料2. 「2. 学修成果」 (6~7頁) 参照)

学生は正課（基幹教育・専攻教育）・正課外（課外活動・その他）の経験を通して、「主体的学び・協働」「知識・理解」「知識を応用する力」「新しい知見を創出する力」「知識を実践的場面で活用する力」が身に付いたと感じている。



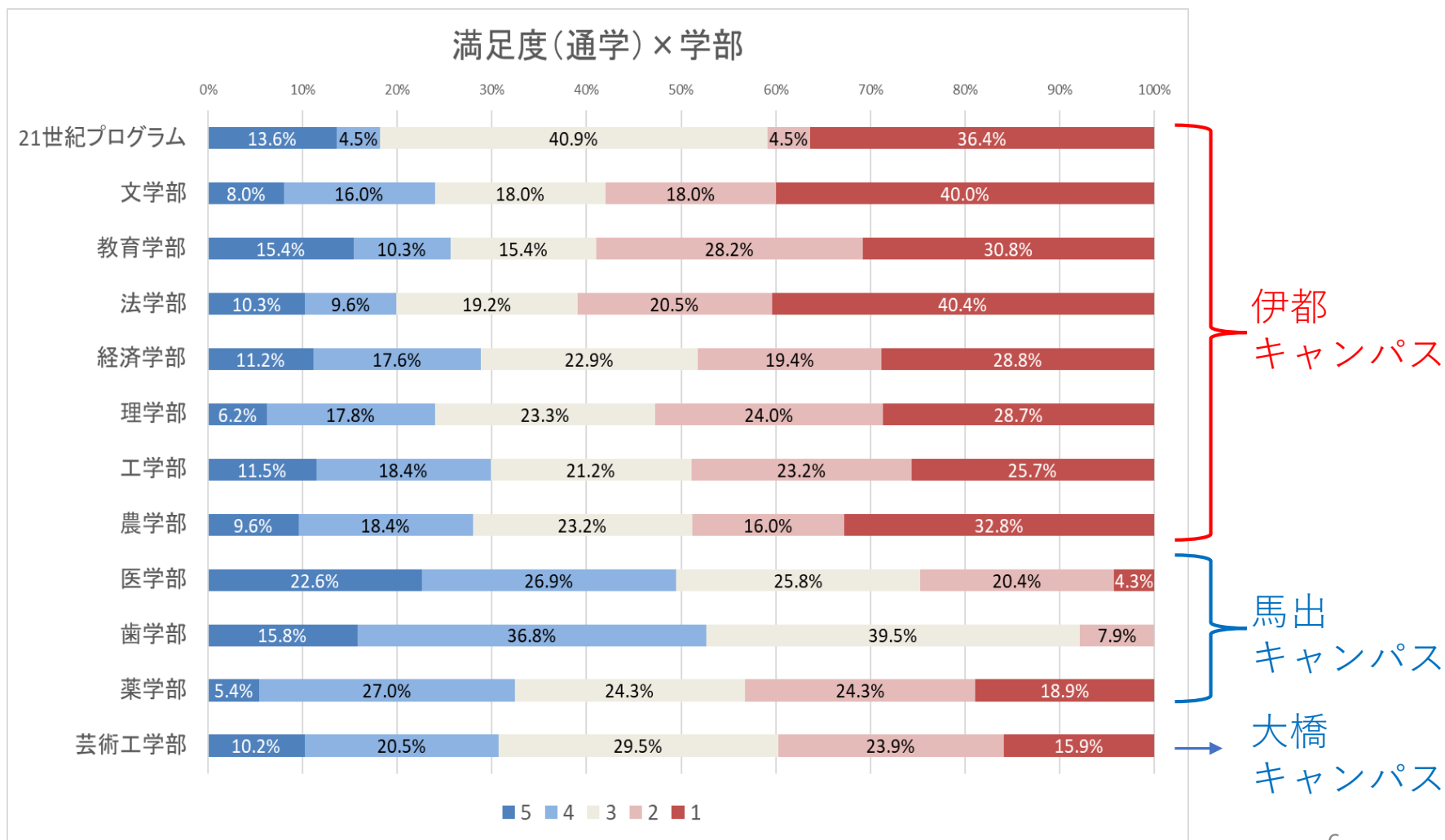
# 満足度

(資料2. 「3. 満足度」 (全体8頁、学部・学府別9～30頁) 参照)  
「通学 (交通機関)」を除いて、満足度は概ね高い。



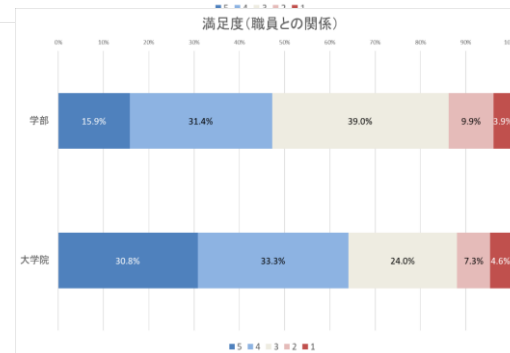
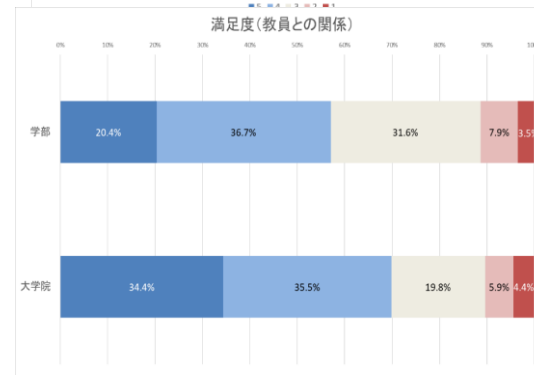
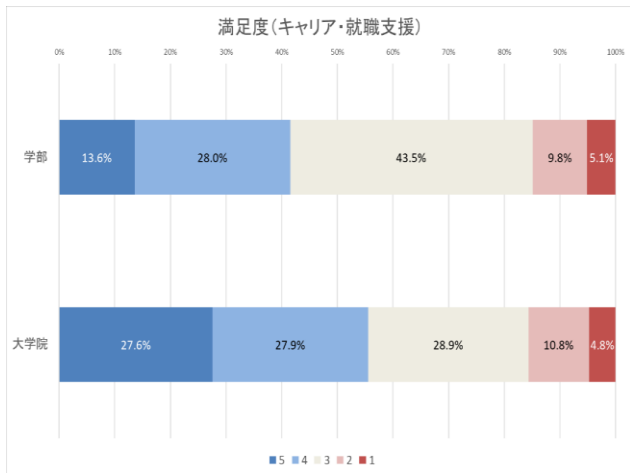
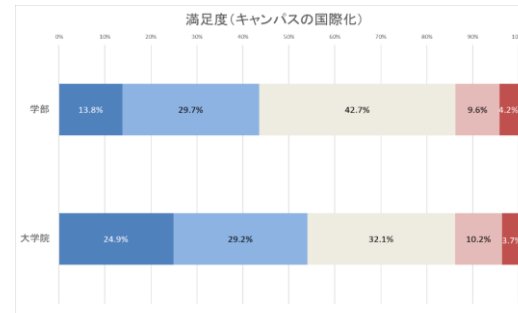
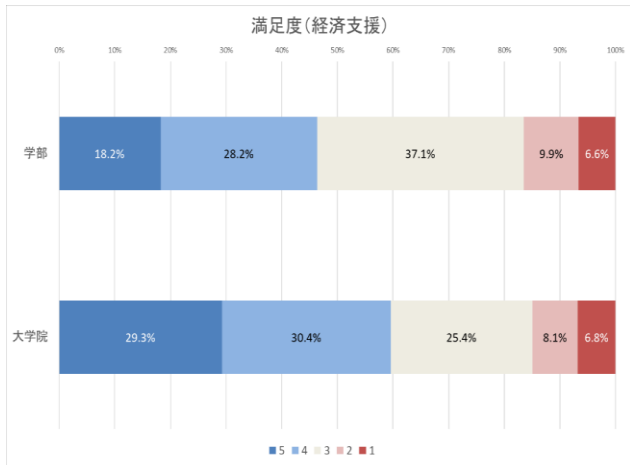
# 満足度 (資料2. 「3. 満足度」 (30頁) 参照)

「通学 (交通機関)」について、特に伊都キャンパスの学生が不満に感じている。



# 満足度 (資料2. 「3. 満足度」 (31~33頁) 参照)

「経済支援」「キャリア・就職支援」「キャンパスの国際化」「教員との関係」「職員との関係」については、学部生よりも大学院生の満足度が高い。



# 令和3年度用の質問紙の改善（資料4）

- 基幹教育の学修成果項目 & 満足度項目
  - （修整前）大学院生は回答不要のため、N/Aを選択してください。
  - （修整後）**大学院生は学部の専攻教育について問う** こととする。
- 「その他の活動」を通じた学びの成果項目
  - （修整前）ボランティア等
  - （修整後）ボランティア・**アルバイト**等
- 属性項目の追加
  - **卒業（修了）時の居住形態**
  - **修士・博士の別**（学務情報システムより情報を追加する）。
- 評点ラベルの修正（「わからない」場合、3に集中しないように）
  - （修整前）5=大いに身についた、4=身に付いた、3=どちらとも言えない、2=あまり身に付かなかった 1=身に付かなかった、N/A
  - （修整後）5=大いに身についた、4=身に付いた、3=どちらとも言えない、2=あまり身に付かなかった 1=身に付かなかった、**N/A=わからない・非該当**